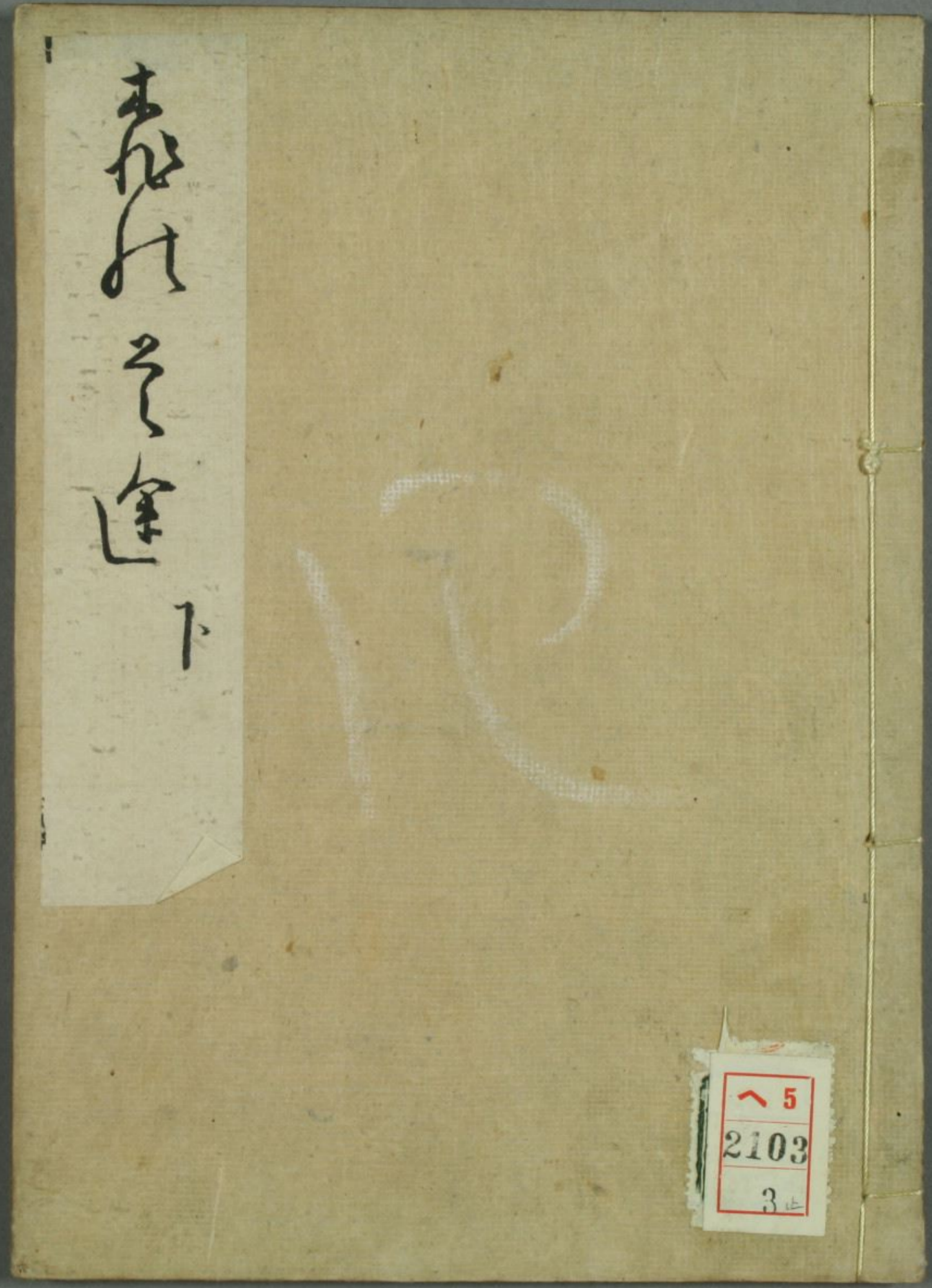


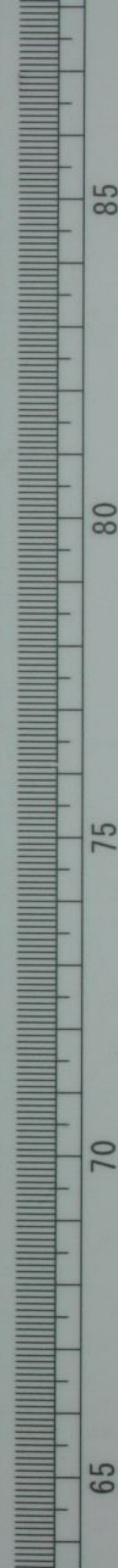
LICENSED PRODUCT

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



本邦の
途下

^ 5
2103
3



65

70

75

80

85

利
2/103
34



石動 短馬行

方學

麻の世活くまわく後の事かよふ
不陸にえこゝ 雲の神地 里の
月のそら ゑふの肺 しくしく 兼使
餅くくしくしくしく 史西
いしくいしくしくしく 可首
まゝのちくちくのまもゆき 眉永

群下

小庵園よりむのこまを深の奥をたて
 玉ふくむふくむのくくく防丸徒

名録

茶い巾つむハ相のるはく
 わふふふふふふふふふの茶鞋い
 信川の信ふふふふふ信ふふふふ

新ふふふふふふふふふ
 ふふふふふふふふふ
 ふふふふふふふふふ
 ふふふふふふふふふ
 ふふふふふふふふふ

安宿

ふふふふふふふふふ
 ふふふふふふふふふ
 ふふふふふふふふふ

二
 二

初志

ちののうゝちうゝねの月巴
 たり月のまゝと梅のやのさ茶
 顔のりの月ねしつやまのさ
 風や鼻てはさるの物豆汁
 池さの襟わさるのハルふ
 こものふささるさるや蒲の
 危言

俳句

ふきの神さる佛よんじ
 ささのうゝささるさる柳さ
 ささささささささささ
 入口とささささささ
 さささ梅とさささささ
 名月やさささささ上
 雨吹

木下

木下

七女の肩よそとけり一巻のむき本
 そとむのこころはくさくさ
 新玉とくさくさトビや又三十日
 かしらぬのまやうきやうき
 海の邊下草うきやうき
 二葉がくさくさくさくさくさくさ
 其れ

廿一

七葉の月うきくさくさくさくさ
 ニとくさくさくさくさくさくさ
 海の邊よきやうきくさくさくさ
 其れ

廿二 短歌行

七葉の月うきくさくさくさくさ

二

七葉の月うきくさくさくさくさ
 七葉の月うきくさくさくさくさ
 七葉の月うきくさくさくさくさ
 七葉の月うきくさくさくさくさ

自悟子心と書く 松茸

熟中と記す 川

色もあつて 白

ついでと記す 松茸

松茸に葉のまじり 許

同前 短

おぼやかしき 申の中

利凍りも松茸も 里

入る候のふし月入も 酒

信の掃除し川 友信

入る年の原ふら 白推

あま味の味をよ 庫

香焼く団が裏し 白

粉のまじり日 酒

下

平...
 如...
 亦...
 此...
 教...
 一...
 保...
 一...

大...
 一...
 一...
 一...
 一...
 一...
 一...
 一...

下

二階うらりや美のわたり
 味 五橋
 暮らひしり 暮らしてゆくや春のい
 志勝
 信実のふりて座へともほれり
 有壽
 さらのあまらよやほのこゝを 控 一席
 いと笑てあはれもふりてお月 二川

清江

短歌

あふらんや津も次^{ニヤ}しかり極

指山

葉敷 祝ふ 里のあまの目 里の
 知十
 鳥目 又代官 送る 馬ゆわく
 曙窓
 う
 ころの氣のまゝと知今 細をく
 魯は
 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉
 蚊呂
 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉
 休水
 葉のまゝとあはれしり 畑 野雲

婦を尊しとてふやせむ 男方より 鳥南

多しの雲とくくく 櫻針 山

とらふかきくくくくくくくくくく 窓

親よとくくくくくくくくくくくく 十

江中一町くくくくくくくくくく 呂

夕日の海邊のまゝに 獨于 侯

おしほへかきくくくくくくくくくく 雪

備中くくくくくくくくくくくくくく 水

あかしくくくくくくくくくくくくく 江

まきくくくくくくくくくくくくくく 南

お袋も故王もくくくくくくくくくく 十

餅餅の沈もくくくくくくくくくく 家

浪孤くくくくくくくくくくくくくく 水

お起くくくくくくくくくくくくくく 岸

いふ事くくくくくくくくくくくくく 島

竹に柳くくくくくくくくくくくくく 書

あら〜と〜と〜と〜と〜と〜と
 後〜もろ〜孝〜小〜神〜の〜内〜ら〜ら〜ら
 こ〜こ〜と〜と〜と〜と〜と〜と
 叩〜ら〜の〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら
 係〜入〜は〜は〜は〜は〜は〜は〜は
 ま

同新 短 新

ま〜ま〜ま〜入〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
 神〜吸〜か〜つ〜る〜境〜の〜張〜地
 ニ〜粒〜の〜あ〜ら〜ま〜と〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま
 候〜候〜候〜候〜候〜候〜候〜候〜候〜候
 漸〜き〜を〜押〜ゆ〜る〜月〜の〜も〜ら〜ら〜ら
 貼〜り〜や〜ら〜ら〜警〜古〜之〜味〜除
 氣〜の〜座〜ら〜ま〜り〜か〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら
 る〜る〜格〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の
 未
 里
 方
 拾
 候
 意
 種
 之

鏡の光とよみし餅の更紗や
木島し今の如き一念の
るものありしはかきし
若し梅娘のまじりて
もの葉よもつらもはた
こころしつらむの合
擇はしつらむのまじり
渡といふはたのまじり
一

はちしつらむのまじり
木島のまじり
美山の精とよみし
るものありしはかきし
若し梅娘のまじりて
もの葉よもつらもはた
こころしつらむの合
擇はしつらむのまじり
渡といふはたのまじり
一

下

下

もよよめれあつてはるる片片
徳を祀ふ門の 番代 足

名録

あつてはるる片片
あつてはるる片片
あつてはるる片片
あつてはるる片片

あつてはるる片片

洵 短きり!

あつてはるる片片

あつてはるる片片
あつてはるる片片
あつてはるる片片
あつてはるる片片

暮をふききつたし月の初を
五條

内室にたつらるるまきの
曾六

おぼしきしつる
遊羽

こころのあふくは法
周路

今宵の静いおぼのた
瀧水

物に合さぬく
まね

もの碎けりし
侍丁

心あふくは
河津

妻買とつらつら
子

れあふくは
宇

東への入道も
信

心のあふくは
今

川町の奥口ふ
六

はさしつる
梅

夕月七日
治

いゝに木の
石

軒好とくも念有の下こり
かきうも名のきふみこり
町並とくもれくむのるを
涼
柳の隣よ ねとるや
丁

名録

まぶのたはよとある 葉山子子 江中

鳴ねりも尾もほかりぬ 柳子 上棟
夕風や交路ふとく あらうと 周路
よせくもる ねねとるぬのむ 曾六
いふ葉のさむいさむい ねの月 素林
丁たぬや 経かともふとく 柳丁
海あふまきと ねとるぬのむ 鳥与
大沼川 月ねや 帆のぬさか 河涼
掛る屋くもくく ねとるぬのむ 菅原

排下

在

柳をくふふまふまふと
 義方
 考まの汁をくふふと
 三三
 煉のふふ新ふふふふ
 葉千
 娘子の縁ふ 猫もふふふ
 文章
 一七七一七 七 七 七 七
 字
 七 七 七 七 七 七 七 七
 餌
 二
 あ尸のふふ 供ふふふふ
 荒
 うふ 七 七 七 七 七 七 七 七
 例の 龍年
 葉

鞠子のふふふ 和ふふふふ
 明
 頃 隣ふふふ 竹の子
 頃
 月ふふふふふふふ 七 七 七 七
 平
 七 七 七 七 七 七 七 七
 方
 はふふふ 飯家の 焼 團子
 餅
 七 七 七 七 七 七 七 七
 千
 弱ふふ 留のふふ 七 七 七 七
 七
 七 七 七 七 七 七 七 七
 七
 七 七 七 七 七 七 七 七
 七

いよきのちよていしんちのち
しのさくのちよていしんち

右録

まよふとにさしんちよていしんち
風のしんちしんちしんちしんち
振ふる風まよふとにさしんち

一河のちしんちしんちしんちしんち
須保のちよていしんちしんちしんち
まよふとにさしんちしんちしんち
徒系、二友のちよていしんちしんち
深はくしんちしんちしんちしんち

諸国遠近 文通部

洛陽

山里の女の字をあらう菊の花 吾仲
連翹もすゝもいと咲よけり 花字
飯もあつてあつてあつてあつて 山只
花知てあつてあつてあつてあつて 素衣
一三の遠近のついでに

草庵のあけらのもやとみ月 暁子 酒堂
あつてあつてあつてあつてあつて 昌房
十二のあつてあつてあつてあつて 大信 幸池
あつてあつてあつてあつてあつて 田入

但馬

一あつてあつてあつてあつてあつて 山口 仙歌
あつてあつてあつてあつてあつてあつて 幸仲

石見

又よくわらひていふことくは
風戸もも ちかき ちかき ちかき
ちかき ちかき ちかき ちかき

尾張

名月やあのおのこ ちかき ちかき

あまのこ ちかき ちかき ちかき

世のふよよのぬか ちかき ちかき

候もも ちかき ちかき ちかき

ちかき

里山

ちかき

ちかき

巴輪

三徑

丁物

巴産

あまのこ ちかき ちかき ちかき
あまのこ ちかき ちかき ちかき
あまのこ ちかき ちかき ちかき
あまのこ ちかき ちかき ちかき
あまのこ ちかき ちかき ちかき

尾張

あまのこ ちかき ちかき ちかき

あまのこ ちかき ちかき ちかき

あまのこ ちかき ちかき ちかき

ちかき

角品

涼之

佐柳

あらゆる人びとにわたる木の葉の音
 秋の風も合せぬ人の水うねり
 生かす行ありあはれさきさき
 春のむらさきや緑のよき川
 山吹や下よきさきのくれ
 りの月のひかりうららかに
 苗代や親にふきし
 さくらさくらと歌くはげしく
 北

中野川
春之

人びとにわたる木の葉の音
 さくらさくらと歌くはげしく
 清らかなる水は
 風の音も合せぬ人の水うねり
 生かす行ありあはれさきさき
 春のむらさきや緑のよき川
 山吹や下よきさきのくれ
 りの月のひかりうららかに
 苗代や親にふきし
 さくらさくらと歌くはげしく
 北

非下

八

昔々

春李

柳音

伴音

又妻

親水

三郎

波音

しほし舞はけし 移うねい 浦仰

越後

まふふ ちまふふぬとりの 後摩 慈竹

あふ人のあし吹あくる 後 ともふ 一宮

あまふのあまふふふふふ 日のつらふい 浮門

あふふふふ 移子のあふふ 後 ちま

誰の目ふとふらのふち白螺 貴 玉お園

流伝の船ふふふ 運のふらふい 浮門

あふふふふふふふふ 移月ね 小酒

七羽

麻のふふふふふふふ 移 梅の意 友七

泥虫の泥とくふふふ 移 呉天

ふふふふふふふふ 移 河豚汁 ね草

あふふふふふふふ 移 南江

あふふふふふふふ 移 南江

あふふふふふふふ 移 只白

この野よりふるり

在野山
遊魚

薫くくや之破牛き居のほえ

越水
養農伴尾

し〜〜〜〜〜

洞極

し〜〜保録〜〜〜

足正

雪あふるもの

梅意

夕十和十や御よ

同
雪意

女〜〜〜〜〜

尾別屋
馬六

大〜〜〜月の

同
常和

山依ち見〜〜〜

越後高田
巻耳

ち〜〜〜〜〜

同
復原

汝のみり〜〜〜

山隣

享保申年申日

京町二条

徳川治長衛板

排下

正終

